

# 東条川疏水の恵み次代に

## 地域振興関係者ら50人議論

**加 東**

加東市黒谷の鴨川ダムから続く108

キロの水路網「東条川疏水」について考えるワークショップが23日、

加東市上三草のやしろ国際学習塾で開かれた。70年近く流域を潤してきた疎水の恵みを次世代に引き継いでいこうと、観光ボランティアや地域振興に取り組む有志ら約50人が、新た

な取り組みについて議論した。

1951年に完成した鴨川ダムの水は加東市と、小野、三木市に流れ、高級酒米「山田錦」の主要産地を支える。北播磨民局は2012年、この流域を博物館と捉える構想を策定し、15年からシンポジウムを開いてきた。

今年「井戸端会議」と銘打ち、グループごとに分かれて知恵を出し合った。参加者は8人ずつ4班に分

東条川疏水の恵みとして、地元産の桃などで作った菓子について説明する岡本結音（ゆのん）さん（左）と吉田遥香さん＝やしろ国際学習塾



かれ、地元の兵庫教育大学院教授らが議論を促した。総コーディネーターは、大阪大学大学院の畑中直樹・招聘教員が務めた。会議に先立ち、博物館構想を進める総会には、自治体や各種団体などの約60人が出席。疎水を使って育て

た桃などの菓子作りに取り組む社高校（加東市木梨）の生活科学科2年生が、山田錦の日本酒を使った菓子「夢恋チヨコパウンド」や、学校給食での地産地消などをアピールし、会員の大きな拍手を受けた。

（笠原次郎）

**獅子銀** 道の駅  
とつじょう店  
0795-47-2888